歴史に学ぶ

IMF(国際通貨基金)の世界経済見通し(2029-1 改訂)は、2019 年の世界経済の成長率は 2.9%と推計した。

これは、2017年に3.8%だったのと比較して著しく低いと言うだけでなく、世界金融危機 以降で最も低い水準である。

特に、中国を始めとする新興国経済の成長鈍化は顕著であった。

日本経済もまた、景気後退局面に入っていた。

いや、それどころか、20年以上に及ぶ長期のデフレーションが続いていたのである。

にもかかわらず、2019年10月、消費税率が10%へと引き上げられた。

景気後退下における増税と言うのは、普通に考えれば、信じがたい愚策である。

ウォールストリートジャーナル誌の社説(2020 年 2 月 18 日)は、この消費増税を「大失態」と表し、過去 2 度の消費税増税(1997 年と 2014 年)と同じ失敗を繰り返したと皮肉った。

そんな事は本来であれば海外誌に言われるまでもないことであろう。

しかし、この大失態に反対する行為は少数に過ぎなかった。

それどころか、経済学者、政治家あるいは財界の中には、消費税率のさらなる引き上げを 求める声まであったのである。

とは言え、この大失態の結果は隠しようもなく、2019 年 10 月から 12 月の実質 GDP は、前期比-1.8%、年率換算でマイナス 7.1%と激しい落ち込みを見せた。

とりわけ、個人消費と設備投資の減少がいつしかあった。

そこに新型コロナウィルスが襲いかかってきたのである。

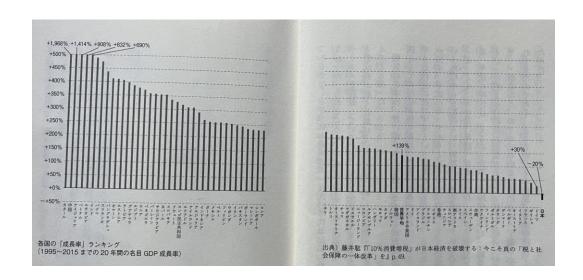
世界的なパンデミックは収まる気配はなく、日本においても警戒体制が続いている。

このパンデミックによる実体経済の危機が、金融危機のトリガーを引き、さらに世界的な 恐慌や政治の不安定化を招くことを恐れている

仮に、パンデミックを早期に制圧したとしても、消費税によって消費が抑制され続けている限り、日本経済が成長軌道へと向かう事はないだろう。

日本経済の現状認識

日本経済は、1990年代半ばから現在に至るまで、ほとんど成長していなかった。 それどころか 1995年からの 20年間、名目国内総生産(GDP)の成長率がマイナスを記録 しているのは、世界各国の中でも日本だけだった。(図参照)



低インフレと低成長が続く状態は、いつの間にか「日本化(japanification)」という、不名誉な名で呼ばれることになった。

戦後の日本は、焼け跡から奇跡とも称された高度成長を成し遂げ、世界第二の経済大国と しての地位を勝ち得た。

さらに遡れば、明治の日本は、西洋世界以外において、いち早く近代化に成功すると言う 偉業を成し遂げた。

ところが、そのような輝かしい歴史を持つわが国が、平成になってからと言うもの、突如 として、長期停滞に陥り、世界第二の経済大国と言う地位からも転落して、凋落の一途をた どっているのである。

もっとも、この30年間、日本国民は、何も手を打たなかった、と言うわけではない。 その逆に、平成の時代はまさに改革の時代だった。

「構造改革」「抜本的改革」「維新」「革命」といった勇ましい標語が氾濫する中で、政治、 経済、財政、通商、行政、教育、医療、エネルギー、農業等、ありとあらゆる方面にわたっ て、改革が進められ、新奇な政策が次々と実行されてきたのである。

ところがその結果、日本経済は停滞から抜け出すことができなくなったのである。

問題は、平成の日本人に危機感が欠けていたことにあるのではない。

むしろ、「従来の日本の政治経済システムは限界に足した」と言う強い危機感に駆り立てられ、「古い常識を捨てよ」「過去の成功体験にはとらわれるな」と、果敢に改革に取り組んだからこそ、日本は凋落したのだ。

その一例をあげれば、2019 年 10 月の消費増税と言う大失態も、財政赤字に対する強い危機感が招いた結果に他ならない。

この残念な現実を直視し、これ以上うわ擦った調子で改革だの、維新だのと叫ぶのはやめるべきではないか、

それよりもむしろ、今こそわが国の歴史に蓄積された智慧を学び直す時なのではないか。

特に、今日のように世界が混迷を極め、国がその行き先を見失っているような時代には、 歴史は、しばしば羅針盤となってくれるはずである。

ともすれば、歴史は過去から未来へ向けて進歩するものであり、現在の思想は過去の思想 よりも優れている、と思いがちである。

しかし、そのような思い込みには実のところ何の根拠もない。

実際は、過去の思想の方が現代よりもはるかに優れていることも少なくないのである。 そして、「過去との対話」を重ねていく過程で、我々自身の思想の方が正されていくと言うことがあり得る。

そのような経験こそが「歴史に学ぶ」と言うことなのではないだろうか。